

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270400294		
法人名	バンドーウエルフェアグループ株式会社		
事業所名	グループホームバンドー黒石		
所在地 (電話番号)	〒036-0357 青森県黒石市追子野木1丁目190-2 (電話) 0172-59-2626		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 11月 21日	評価確定日	平成 20年 12月 29日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	11人, 非常勤 3人, 常勤換算 10.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋内科、デンタルクリニック佐藤
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>同じ敷地内に、それぞれ一戸建ての2つのユニットがある。運営に当たっては、各ユニットの管理者や職員の独自性や自主性が尊重されているので、共同空間の作りから日々の利用者の過ごし方に至るまでそれぞれに特徴がある。しかし、利用者に笑顔で温かく接し、利用者にとって居心地のよいホームにして行こうとする姿勢は共通している。健康管理に関しては、訪問看護ステーションと契約を結ぶなどしてその支援体制を強化しているほか、すぐ近くに消防署があるので緊急時や災害時の支援体制の面でも心強い。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果を真摯に受け止め、前年度の外部評価時の調査員との意見交換や報告書を基に改善課題に取り組んではいるが、実施できているとの評価レベルに至った項目はごく一部に留まっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価をするにあたって、昨年度の自己評価の内容を申し送りや会議などで再点検し、意見を出し合いながら、さらなるサービスの質の向上に向け、取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、事業所からは利用者の生活状況、行事、評価結果、取り組み状況などが報告され、市の担当者からは他の事業所での取り組み事例などが報告されている。参加者からの意見や提案については、できる限り日々の実践に活かすよう努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>家族が面会時等に話しやすいような雰囲気作りをするなどして、意見や要望を聴取している。寄せられた意見等は全職員で検討し、取り入れられるものは取り入れてケアや運営に反映させている。利用者の暮らしぶりや健康状態、出納状況等については、家族の面会時等に報告しているほか、本人の健康状態等に変化があれば、その都度、報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入したり、児童館の子供たち、中学生の体験学習、コーヒーボランティア等を受け入れているが、事業所が住宅地から少し離れた場所にあるなどの事情もあって、地元の人々との交流を図ったり、事業所の存在を理解してもらうための取り組みは行われていない。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各ユニット毎にサービスの提供に当たって拠り所とする独自の理念をつくりあげている。		地域密着型サービスとしての内容を反映させた理念をつくりあげていくことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示したり、管理者が申し送りで伝えるなどして全職員で共有し、サービスに具体的に反映されるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入したり、児童館の子供たち、中学生の体験学習、コーヒーボランティア等を受け入れたりしている。事業所が住宅地から少し離れた場所にあるなどの事情もあって、地元の人々との交流を図ったり、事業所の存在を理解してもらったりするための取り組みは行われていない。		立地条件が同じような地域に住む人々の近所づきあいや地域交流を参考にするなどして、利用者が地域の一員として暮らしていることを実感できるような取り組みを期待したい。また、町内会の協力を得るなどして事業所の存在を理解してもらうための取り組みのほか、これまでの認知症ケアの実績を地域に還元するための取り組みにも期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は評価の意義を理解し、その活用に精力的に取り組んでいるが、サービスの自己点検や質の引き上げに有効な『サービス評価ガイドブック』についての情報が入手できていなかったり、管理者が中心に取り組んでいる等の状況のため、評価を活かしきれていない。</p>		<p>項目の「考え方の指針」や「着眼点」等を参考に、職員一人ひとりが評価に取り組むほか、事業所の実情や今利用できる諸資源を最大限に活用するなどして、実際に提供しているサービス全体の質の高さが、外部評価にも反映されるような取り組みが期待される。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所からは利用者の生活状況、行事、評価結果、取り組み状況などが報告されている。また、参加者からの意見や要望、提案については、できる限り日々の実践に活かすよう努めている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>主に運営推進会議において市の担当者に、運営や現場の実情等を伝えている。事業所から担当者に出向くのは、必要な書類の提出等の時に留まっている。</p>		<p>地域密着型サービスの指定、指導権限者である市の担当者のところへ出向く機会を増やし、直面している課題の解決やサービスの質の引き上げに向け、共に取り組むことを期待したい。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は外部研修などを通じて制度についての理解を深めているが、全ての職員が制度の概要を理解するには至っていない。</p>	○	<p>事業の窓口である市の社会福祉協議会や地域包括支援センター等の担当者に出向くなどして、制度に関する基本的な情報を収集し、全ての職員が必要な時に関係機関との橋渡し役になれるような取り組みを期待したい。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者、職員は虐待とはどのようなものか理解し、ケアの提供場面や利用者の身体状況等の観察を行い、虐待が見逃されることがないようにしているが、虐待を発見した場合の通報に関するルールは、明示していない。</p>	○	<p>虐待を発見した場合、行政のどの部署に通報するのか等、通報に関するルールを具体的に明示することが望まれる。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入・退居時や契約の改訂時等に、管理者が利用者や家族と面談して、十分な説明を行うと同時に、不安や疑問に丁寧に対応し、理解と納得を図っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時に、利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告しているほか、本人の健康状態等に変化があればその都度電話で報告している。金銭の出納状況については、個別の出納帳に記録すると共に領収書等を貼り、個々の家族に応じた方法で報告している。</p>		<p>近況報告書の発送を通じて、利用者の日頃の暮らしぶりや職員の異動状況等を、定期的且つ確実に伝えて行こうとする取り組みに期待したい。</p>
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時に話しやすい雰囲気作りをするなどして要望や意見を聴取し、取り入れられるものは取り入れてケアに活かしている。苦情ボックスについては設置理由を誤解している方がいた等の事情から、現在、撤去している。</p>		<p>利用者の立場に立ったサービスの質の向上を図るうえで、最も貴重な情報と言われる苦情を家族等が建設的に伝えられるようにするために、その設置意図の掲示や、意見、不満、苦情が職員の力量や事業所のサービスの質の引き上げに寄与している実例を報告するなどの、具体的な取り組みが望まれる。</p>
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人の運営上必要となる有資格者の再配置など、やむをえない事情がない限り、職員の異動はしない方針である。個人的な事情で離職することになった場合、新しい職員へ十分な引継ぎを行うと同時に、利用者にも丁寧に説明し、理解を得るようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の運営者は事業所並びに職員の資質向上に向け、職員が外部の研修に参加することを奨励している。職員もまた知識や技術の習得の必要性を痛感し、事業所の近くや居住地の近くで、低額、良質の研修会がある都度、個人の立場で参加している。	○	利用者の生活をより充実させたいという職員の願いに応え、職員が今必要とするテーマを題材にした内部研修を期待したい。地域密着型サービスの質は職員一人ひとりの質によって成り立っているという特殊性を踏まえ、時代の変化に対応した法人としての実質的な支援を期待したい。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は外部研修の場で情報交換しているが、他法人の地域の同業者と交流する機会の確保や相互訪問、勉強会などを通じての事業所のサービス水準の向上を図る取り組みは行っていない。		同業者との相互交流や連携の有用性に関する情報を現場から運営者に発信するなどして、その共有化を図り、地域全体のサービスの質の向上に向け、共に取り組むことを期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者から生活に対する希望や不安などを聞きだし、個々の意向に沿って柔軟な対応をしたり、気の合う利用者との団欒を取り持つなどして、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に過ごしながら一人ひとりの喜怒哀楽を理解するように努めている。また、利用者から郷土料理や野菜作りなどを教えてもらったり、包丁砥ぎなどを手伝ってもらうなどして、共に支えあいながら暮らしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者から思いや意向を聞きだしたり、家族と情報交換するなどして把握に努めているが、把握しきれていない利用者もいる。</p>	○	<p>アセスメント用紙等の共通の題材をもとに、利用者、家族、職員の三者で、本人の思いや意向の把握漏れがないか確認しあう等の取り組みを期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンス等での職員の気づきや意見を組み込んで原案を作成し、それを元に利用者、家族と話し合っ、利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、認定有効期間内に確実に見直しされている。また、本人の状態に変化があれば、その都度、関係者と話しあって見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>訪問看護ステーションとの契約により、週1回訪問看護を受けている。また、通院介助や買い物などの要望にも、柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する病院に通院している。また、他市の協力医院のほか、事業所の近くに気軽に相談できる医院を確保するなどして、本人の状態や希望に合わせ、適切な医療が受けられるようにしている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的には重度化や終末期への対応はしない方針であるが、直ちに移転先が確保できない実情と利用者の心理面等を考慮し、より充実したケアが受けられる施設に移るまでの間に提供できるケア等を指針として文書化し、関係者と利用時や入院時に確認し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、プライバシーや羞恥心に配慮して利用者に関わっている。管理者は、少しでも気になる職員の言葉遣いがあれば、その都度伝えるようにしている。また、個人の記録等は他者の目につかない場所に保管する等、適切に対応している。	○	職員に伝えている言葉遣いや接遇に関する留意事項等を文書化し、職員自らが継続的に自己点検できる体制作りを期待したい。
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は個々の利用者のペースを把握しており、その方のペース、その日の体調、希望等を尊重して日々の暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と職員は食事の準備から後片付けなどを一緒に行なっている。また、一人ひとりの利用者の好みや苦手なものに配慮して食事を提供したり、職員も同じテーブルに座ってさり気なくサポートするなどして、和気あいあいと食事をしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>希望があれば毎日でも入浴できる体制を整えている。また、入浴の順番、時間帯、入浴のペース、お湯の温度など一人ひとりの希望やタイミングを尊重した支援のほか、入浴場面を見られたくない方には脱衣場でさり気なく安全を確認するなどの工夫をしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活歴や希望などを聴取し、食事の準備や後片付け、畑仕事、包丁砥ぎなど、各々が得意とするものを暮らしの場面場面で活かせるように支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>本人の意向を尊重しながら、天気の良い日は散歩に出かけているほか、買い物、遠出等の外出支援も行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は禁止対象となる具体的な行為について理解し、身体拘束のないケアを実践しているが、生命または身体を保護するため緊急やむを得ない場合に備えて記録等を用意する等の体制は整備されていない。	○	緊急やむを終えない事態をも想定し、『緊急やむを得ない拘束に関する説明書』『経過記録・再検討』等、必要となる公的な記録用紙の整備が望まれる。
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の近くに用水路や交通量の多い国道があり、無断外出による重大事故が予見される方の受け入れもやっている。チャイムの設置や見守り強化などを行なっても、活動的な方の無断外出は防げていない他事業所の事例等を勘案し、鍵をかけることの弊害は理解しているが、24時間、玄関を施錠している。	○	外出コースの環境にある危険を回避できない利用者が重大事故に遭遇した場合は、管理責任を問われかねないという実情ではあるが、他の利用者も含め、外に自由に出たという思いの尊重も大切である。運営推進会議等でさらなるアイデアを出し合って、普通に暮らしていると実感できる時間帯を作る取り組みに期待したい。
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	すぐ傍にある消防署と、合同で昼を想定した火災訓練を実施しているが、地震に備えての対策は行っていない。	○	予定している夜間想定訓練のほか、地震訓練も行うことが望まれる。また、地震直後であっても契約書に示されたサービスが提供できるよう、自前の食料や飲料水等を数日分用意しておくことが望まれる。
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取状態を把握している。また、調理に当たっては栄養バランス等に配慮して食事を提供しているが、栄養士からの専門的視点での助言は受けていない。	○	利用者の状態や変化に合わせた適切な食事支援が行えるよう、公的機関等の栄養士に献立表を見ていただくなどして、専門的見地からの定期的なアドバイスをもらえる体制づくりが望まれる。
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを整備し、事務室内に特に注意を要する感染症マニュアルを掲示するなどして職員の振り返りを促しているが、家族等に感染症に関する情報を提供する取り組みについては、引き続きの課題となっている。		感染症に弱い高齢者の暮らしを守るため、家族等の訪問者にも感染症の予防方法や季節的に留意して欲しい感染症に関する情報等を提供するなどの取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>二つのユニットの若干の共同空間の違いや利用者の状態を考慮して、それぞれがゆったりくつろげるための空間作りを行っている。また、季節の花や外出時の写真をさりげなく飾るなど家庭的で季節感のある空間作りを行っているほか、室温やテレビの音量などは、利用者と話しあって決めている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族と相談しながら、使い慣れた冷蔵庫やタンス、鏡台、仏壇などを自由に居室に持ち込み、思い思いに過ごしている。</p>		

 は、重点項目。